

平成 23 年 2 月 10 日

各 位

会 社 名 黒川木徳フィナンシャルホールディングス株式会社  
代表者名 代表取締役社長 工 藤 英 人  
(コード 8737 大証第2部)  
問合せ先 執行役員管理本部長兼総合企画室長兼財務経理部長 川中 雅浩  
(TEL 03-6821-0606)

## 平成23年3月期第3四半期業績と前年同四半期業績との 差異に関するお知らせ

平成 23 年 3 月期第 3 四半期連結累計期間(平成 22 年 4 月 1 日～平成 22 年 12 月 31 日)の業績が、前期の平成 22 年 3 月期第 3 四半期連結累計期間(平成 21 年 4 月 1 日～平成 21 年 12 月 31 日)の業績に対して、下記のとおり差異が生じたのでお知らせいたします。

### 記

#### 1. 平成 23 年 3 月期第 3 四半期業績と前年同四半期業績との差異

(単位：百万円、%)

	営業収益	純営業 収益	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
平成 22 年 3 月期第 3 四 半期連結会計期間 (A)	2,543	2,498	△98	108	68	2 円 03 銭
平成 23 年 3 月期第 3 四 半期連結会計期間 (B)	2,346	2,246	△462	△168	2,032	34 円 76 銭
増減額 (B-A)	△197	△251	△363	△277	1,963	32 円 73 銭
増減率 (%)	△7.8	△10.1	—	—	2,862.2	—

#### 2. 差異が生じた理由

当第 3 四半期連結累計期間(平成 22 年 4 月 1 日～平成 22 年 12 月 31 日)の我が国経済は、企業収益の改善や設備投資の持ち直しがみられるものの、資源価格の上昇や円高の進行による輸出や企業収益への悪影響の懸念や厳しい雇用情勢など、先行きは依然として不透明感が払拭されない状況が継続しております。

株式市場におきましては、欧州での財政問題に端を発する金融不安の深刻化や円高の進行による企業収益の悪化懸念の高まりなどにより低迷が続き、平成 22 年 8 月下旬には日経平均株価が 8,800 円台まで下落いたしました。その後は日銀の包括的な金融緩和政策や米国の量的金融緩和と第二弾などの影響を受け徐々に回復し、平成 22 年 12 月末の日経平均株価は 10,228 円 92 銭で取引を終了いたしました。

当社の主要な連結子会社である黒川木徳証券(株)は、このような株式市場の影響を受け、当第 3 四半期連結会計期間(平成 22 年 10 月 1 日～平成 22 年 12 月 31 日)の受取手数料は 719 百万円(前年同四半期比 2.0%増)となりましたが、当第 3 四半期連結累計期間(平成 22 年 4 月 1 日～平成 22 年 12 月 31 日)では 1,916 百万円(前年同四半期比 11.2%減)となり、トレーディング損益は 178 百万円(前年同四半期比 40.6%減)となりました。

また、当社は、平成 22 年 10 月 1 日付で、親会社である(株)クレゾーを吸収合併消滅会社、当社を

吸収合併存続会社として合併しておりますが、「企業結合会計基準及び事業分離等会計基準に関する適用指針」（企業会計基準適用指針第10号 平成20年12月26日）第212項に基づき、子会社である当社の個別財務諸表における合併に係る処理を振り戻し、当該合併以前の㈱クレゾーの連結財務諸表における処理を合併後も継続すると共に、㈱クレゾーが当社の少数株主から株式を追加取得したものとして会計処理を行っております。この処理により、固定負債に負ののれんが2,270,216千円、営業外収益に負ののれん償却益が187,860千円、特別利益に負ののれん発生益が1,253,028千円計上されております。なお、㈱クレゾーは当社株式の取得に伴い、平成20年9月末に3,225,204千円、平成22年3月末に709,789千円の負ののれんを計上しており、発生時より5年間の定額法により償却を行っております。

さらに、当社は、平成22年10月1日付で、当社を完全親会社とし、黒川木徳証券㈱を完全子会社とする株式交換を行いました。この処理により、特別利益に負ののれん発生益が846,154千円計上されております。

この結果、当第3四半期連結累計期間の営業収益は2,346百万円（前年同四半期比7.8%減）、経常損失は168百万円（前年同四半期は経常利益108百万円）、当四半期純利益は2,032百万円（前年同四半期比2,862.2%増）となりました。

以 上